

史跡めぐり 大野城をあるく

日本遺産「古代日本の「西の都」」構成文化財の一つで、市名の由来にもなっている大野城跡を見学します。大野城は、約1350年前に造られた古代の山城で、当時の建物の礎石や防御のための土塁・石塁などが残っています。解説を聞きながら、大野城跡を歩いてみませんか。

- 対象者 山歩きができる体力に自信のある人
(少し急な山道があります。)
- 日時 11月13日(土)
午後1時～5時(集合 午後0時半)
- ※雨天中止(当日朝7時前の天気予報で降水確率60%を超えた場合)。不明の場合は、市コールセンター(☎(501)2211)へ問い合わせてください。
- 集合と解散場所 四王寺県民の森センター駐車場
- 定員 15人(先着順)



- 持ってくるもの 飲み物
- ※山歩きができる服装・靴で来てください。
- 申込期間 10月20日(水)～29日(金)
- 申し込みと問い合わせ先
ふるさと文化財課啓発・整備担当(心のふるさと館内)(平日8時半～午後5時)
☎(558)2206

日本遺産「古代日本の「西の都」」をめぐる!

〔観世音寺・塔原塔跡・般若寺跡・筑前国分寺跡・杉塚廃寺〕～西の都の信仰～

538年に日本へ仏教が伝来して以来、各地に寺院が造営され、大宰府とその周辺にも多くの寺院が建立されました。

現在もお法灯を守り続ける観世音寺は、天智天皇が661年に崩御した母斉明天皇を追善するため建立されました。完成は文献によれば746年と

され、大規模な伽藍をもつ鎮護国家の寺として「府の大寺」とも呼ばれ、761年には僧や尼に正統な戒律を授ける戒壇院が設置されるなど、九州の仏教の中心でした。また、寺には大陸由来の舞楽を行う伎楽団がおかれ、伎楽に使われる面が現存しています。これらは寺に安置された諸仏とともに重要な文化財に指定されており、平安から鎌倉時代にかけて洗練した仏教が伝わっていたことが分かります。

塔原塔跡は、仏舎利を納める舍利孔をもつ塔心礎のみが残っており、筑紫大宰帥蘇我日向が孝徳天皇の冥福を祈って654年に建立した般若寺の跡とする説があります。また、これを奈

良時代に条坊内に移築したとされ、現在の西鉄二日市駅近くには「般若寺」の地名が残っています。

この他、筑前国分寺は聖武天皇の命令で全国に建立された国分寺の一つで、8世紀中頃には完成していたと考えられています。杉塚廃寺も発掘調査の結果、8世紀初め頃の寺院であることがわかっています。

このように、大宰府周辺には多くの寺院が建立されました。それは、大宰府が古代九州の政治の中心であり、宗教の中心でもあったことを示しています。その名残は、観世音寺の鐘の音が今に伝えています。



観世音寺講堂

●問い合わせ先

ふるさと文化財課啓発・整備担当(心のふるさと館内)

☎(558)2206